



岩井よしえ Tel/Fax955-7340 深良 2706-2
(ブログ、ツイッター、YouTube) 岩井よしえ
yosie-820aug@purple.plala.or.jp



岡本かずえ Tel/Fax992-5174 茶畑 854-3E101
(ブログ、ツイッター、YouTube) 岡本かずえ
peace_love_cabird@yahoo.co.jp

明るい裾野

弱いひと 困っているひとの味方—直線の共産党

困ったことは岡本かずえ、岩井よしえのなんでも相談へ

戦争法案イヤです 私の声 みんなの声

日本人として人を殺し 殺される道を歩まないために

深良 小澤良一

私は、太平洋戦争で日本が敗れた翌年の1946年(昭和21年)11月にこの世に生を受けた。だから戦争のことは知らないが、食料不足で「さつま芋」を食べることが多かった。着るものはあちらこちら現代風と言えばパッチワークであるが、あて継ぎだらけであった。

幼少期に近所で火事があり、ジープに乗った占領軍警察MPの腕章を付けた外国人・米国人が調査にきたことが記憶にある。

貧しかったが、平和憲法と共に歩んできた。歴史が好きで、明治時代以降の国内外の事件に関心があった。

米国による「ベトナム戦争」はベトナムの人々がアメリカ軍による重爆撃で悲惨な状況下でありながら、ゲリラ戦で勝利した。アメリカはこの戦争で敗れて以来、世界各地でアメリカの利益のために他国に攻め入っているがアメリカの思うような、成果はでていない。それどころか「テロの勢力に脅

かされている」。アメリカは世界の憲兵として君臨するために軍事同盟関係にある日本の自衛隊を米軍の指揮の下でアメリカの戦争に日本を協力させることを企てた。今、

安倍晋三自民党・公明党政権は、「自国が他国から攻められていないのに同盟関係にある国(アメリカ)が攻められている時は集団的自衛権行使ができるようにする平和安全保障法制関連法を制定しようとしている。集団的自衛権は憲法違反として、これまでの政府解釈として認めることはしてこなかった。しかし安倍晋三首相はアメリカに行き、夏までには集団的自衛権が行使できるよう、法案の成立を約束してきた。

憲法前文では政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こるようなことはしないことや憲法9条では国の交戦権は認めないとしている。これによって敗戦後日本人は「人を殺し殺される」ことをしないで経済発展をして平和に暮らし、世界から戦争をしない国として信頼を勝ち得てきた。私は、この日本の高い理念を守るために戦争法案を廃案にするために裾野市民に協力を呼び掛けて行きます。

「神風が吹いて戦争に勝つ」と 教えられた軍国少年だった…

茶畑 庄司恒夫

戦時中は軍事優先で、食料や生活物資が極端に不足し、学生服の金属製のボタンまでも強制的に供出させられました。校庭を利用して「さつまいも」の生産や、山林への杉の植林などに学童が動員されました。

「欲しがりません勝つまでは」「日本は神の国、神風が吹いて戦争に勝つ」と教えられ、私は小学校 5 年生の終戦まで、軍国少年で育ちました。

沖縄が占領され、本土も連日の空襲。そして広島・長崎に原爆が落とされても、「我が大日本帝国軍は敵艦〇〇隻撃沈せり、我軍の損害は軽微なり」などと毎日繰り返し報道していました。ところが、これらが全くのウソの報道であったことが、中学生になってわかりました。

事実とは真逆の言葉で、国民を欺いていた戦前・戦中の軍部のやり方と、今の自民党・公明党の安倍政権が突き進めようとしている「安全保障法＝戦争法案」や原発、基地、TPP 等々の内容と言動が極似しています。

戦争する国づくりに反対です。平和がいい。憲法 9 条を生かした平和外交の方向こそ、戦争の抑止力です。

「戦争法案」に反対し 法案の撤回を求めます

佐野 森本善雄

私は、今国会で審議されている新安保法案、いわゆる「戦争法案」に反対し、法案の撤回を求めます。そういう態度を表明する

一人に加わりたいと思います。

第一に、法案が成立すると、米国の要請で自衛隊が海外の戦場に派兵され、米軍の指揮下で戦争することになると思うからです。15 戦争後 70 年守られてきた不戦の誓いが破られ、自衛隊員が「殺し殺される」ことを余儀なくされることを認めるわけにはいきません。

第二には、米国の同盟国として戦争に加担することは、米国と敵対している国の敵対国になることであり、その国の攻撃対象になることです。（実は、既に日米安全保障条約を結び、その深化・強化をうたっている国であるから、北朝鮮のミサイルを恐れなければならない状態になっています）。新安保法（「戦争法」）が成立すれば危険はさらにまし、国内でもテロなどをさらに警戒しなければならないでしょう。派兵された自衛隊員の危険が増すだけでなく、日本国民、私たち自身が戦争の危険に晒されるでしょう（15 年戦争がそうであったように）。

第三に、このような可能性がある新安保法案は「日本国憲法 9 条に違反する」からです。私たち、日本国は「…政府の行為によって再び戦争の惨禍が起きることのないやうにすることを決意し、…」ました。15 年戦争の惨禍の苦しみを痛切に感じてきたからこそ、再び戦争が起きる可能性を生む法案を認めることはできません。

近・現代の戦争は「自衛権行使」を主張して起こされています。米国は「抑止力」を維持するために「先制攻撃」を否定していません。「自衛」の為という理屈です。

15 年戦争も「自衛」を主張して始められました。だから私は、「自衛権」すら認めないところに「日本国憲法 9 条」の本当の価値があると考えています。私たちの切なる願い

が込められていると思います。100歩譲って、現在までの政府の憲法解釈に妥協するとしても、自衛隊が「殺し殺される」ための演習を重ねながらも(連日、富士山の演習場から大砲の音が響いています)、70年もの間「殺し殺される」ことを免れてきた奇跡は、この切なる願い=声なき声の力があったからこそだと思います。

すぐそばにある戦争の危険 = 米軍基地キャンプ・フジ 岩井よしえ市議会議員

7月21日、小山中学校のテニスコートへ米軍ヘリコプターからの空包が落下するという事件が発生しました。テニス部員がそばにいた中で起きた事故で、一つ間違えば大変な事故につながっていました。24日に裾野、御殿場、小山の各首長、地元地権者、県知事名で中谷防衛大臣宛に要請書が提出されました。ところが3週間も経過しているのに米軍からの報告は何もありません。



18日、島津衆議院議員、もとむら衆議院議員同席のもと東富士演習場の地元2市1町から高木理文御殿場市議、高畑小山町議員、そして岩井良枝と平和委員会会員の皆さんなども参加して防衛省への要請行動を行いました。原因究明や再発防止策はもちろんですが、沖縄県うるま

市沖へ墜落した米陸軍のヘリコプターとの関連についても質しました。また、原因究明されるまでのヘリコプターの飛行中止も要請しましたが、米軍のパイロットの技術向上のために訓練は必要とのこと。住民の安全より訓練が優先するかのような答えでした。東富士演習場には使用協定があり、順守を米軍にも徹底させるよう繰り返し求めました。その他、いくつかの要請も行いましたが、国の答えは主体的な対応が感じられず相変わらずで、米軍に何も言えないことが益々明らかになりました。

3.11を忘れないで！！ —読者



八月のお盆休みを利用して東松島、石巻、気仙沼の被災地に行ってきました。東日本大震災、福島原発事故から4年が過ぎましたが、昨年の名取市閉上と同様どこの被災地も草一面に広がる野っ原。まるで空襲

跡地みたいな瓦礫の中を（写真1）被災した人達が荷物を背負いながら歩く写真パネルを見ていると、今国会で審議されている戦争法案が頭をよぎり、万が一法案が通ったら直ちに戦争が始まり、こんな光景になるのではと恐ろしくなりました。

震災から4年が過ぎたプレハブの仮設住宅は、土台の木が腐りボロボロで修理が必要だとも言っていました。津波で家を失い何も無くなっても元の所へ帰りたいたった高齢女性の一言が胸を熱くしました。



写真 2

石巻復興シンボル「がんばろう！石巻」（写真2）、多くの人達が雪の中を避難して助かった「日和山」、そして約7万本の松の木が津波で押し流された気仙沼、その中で1本だけ残った「奇跡の一本松」（写真3）などに多くの人達が訪れ手を合わせていました。石巻の大川小学校は児童108人のうち84人、教職員は13人のうち10人が津波で亡くなりました。



写真 3

地震が起きたのが土曜か日曜だったら、津波がくるのがもう1時間遅かったらみんな家に帰ってたのに、と亡くなった子供た

ちの親は悔み切れないとのお話は度々耳にします。東京オリンピックに多額の税金を使わないで被災地復興に使ってほしいと願わずにはられません。被災地に行ったら必ず寄りたいと思ってた気仙沼の復興屋台村、新鮮魚が盛りだくさんの海鮮丼は最高でした！是非皆さん足を運んで被災地に出掛けてください。そして3.11を忘れないでください。

戦没者追悼式の日 核廃絶宣言

岡本かずえ市議会議員

戦後70年の終戦の日となった今日、裾野市戦没者追悼式で、高村市長が「核兵器の廃絶と平和都市」をめざすことを宣言しました。宣言文の披露ではありませんでしたが、参列されていた遺族の方々の前で、市長のことばとして述べました。

遺族会長さんの挨拶も、昨年に引き続き「戦争の惨禍を風化させない」想いにあふれていました。昨年、遺族会長さんは市長・教育長に対して、子どもたちに平和教育をやってほしい、広島へ派遣してほしいの思いを述べられました。追悼式会場の文化センター多目的ホールのステージです。

今、裾野市立鈴木図書館で「あいとへいわ展」～えほんを中心に戦後70年を考える～をやっています。主催は、きいろいつばさ・裾野市立鈴木図書館。

遺族会長さんは、早速取り組んでもらったことのお礼と、追悼式の開催をこれからは遺族だけでなく、ひろく市民の参加も考えてほしいと話されました。厳かな雰囲気なかで、私は心から市長のことば、遺族会長さんのことばに感動しました。